


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.43

目次

・特集：不妊症看護認定看護師の院外活動	1
・「健やか親子21（第2次）」推進協議会参加団体グループミーティング報告	2
・第14回学会のご案内	3
・これから行われる学会・研修会情報（2016.3～2016.6）	3
・勉強会開催案内	4
・勉強会開催報告	5
・勉強会助成・研究助成	6
・理事会報告	7
・学会誌への投稿のお願い	8
・もしも不妊看護の現場で行き詰ったら	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8


 特集：不妊症看護認定看護師の院外活動

日本看護科学学会 交流集会に参加して

聖隷浜松病院 松尾 七重

2015年12月6日に開催された、第35回日本看護科学学会の交流集会に参加しました。

テーマを「がん生殖医療の視点から、女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支援するための看護を考える」とし、3名のメンバーとともに企画・運営をしました。私は「女性がん患者に対する妊孕性温存の実際と看護師の役割」として、がん治療前に妊孕性温存に関する選択をした患者さんの事例をメインに発表しました。

参加者の方からは「実際の患者さんの気持ちを知ることができて良かった」「不妊症看護認定看護師の活動を初めて知ったので勉強になった」などの声が聞かれました。意見交換の場では年齢別の妊娠率などの知識不足や、がん治療医と看護師との意識の差で困っているなどの意見があり、医師と看護師やがん領域と生殖領域の連携の必要性を改めて感じました。アンケートでは「新たな知見が得られた」93%「意見交換は役に立った」87%という結果を頂きました。

今回、生殖看護の枠を超えた学会でこのような機会を得ることができ新たな活動の場が拡がりました。この経験を活かし、今後も生殖看護の役割・魅力を発信したいと考えています。

奈良県 CNS・CN 交流会での活動

ASKA レディースクリニック 阿比留 のり代

私は奈良県にある ASKA レディースクリニックで勤務しています。奈良県では2009年に県内の CNS・CN により「奈良県専門看護師・認定看護師協議会」が立ち上げられ、2014年からは奈良県看護協会の協賛を頂いています。全専門領域の CNS・CN が所属施設の垣根を越えたネットワークを構築し、奈良県全般の看護の質を目指した活動を行っています。現会員数は86名です。一昨年に協議会主催の交流会でコンサルテーション

について活動報告をする場を与えて頂き、そこでの活動報告がきっかけとなり不妊症看護分野に興味を持つ方が増え、昨年より協議会の役員を会計監査担当として2年間務めることになりました。県内の他施設・他分野のCNS・CNと共に年2回の交流会と研修会の企画運営をしています。先日は交流会での他施設CNとの交流から、奈良市役所子育て相談課主催の不妊治療の勉強会に講師として参加する機会を与えて頂きました。子育て相談課の方々とは一度限りの関わりにならないように、今後もコンタクトを取り続けていくようにしたいと思っています。そして、今後も施設外のCNS・CNと連携を取り、不妊症看護認定看護師として奈良県の看護の質向上のためにできることを考え、実践したいと思います。

「健やか親子21(第2次)」推進協議会参加団体グループミーティング報告

上澤 悦子

平成13年度にスタートした「健やか親子21」が平成26年度に最終年度を迎え、平成27年度から「健やか親子21(第2次)」が開始されました。

「健やか親子21(第2次)」は、「すべての子どもが健やかに育つ時代」の10年後の実現を目指し、3つの基盤課題「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」と、2つの重点課題「育ちにくさを感じる親に寄り添う支援」「妊娠期からの児童虐待防止対策」で構成されています。(図1)

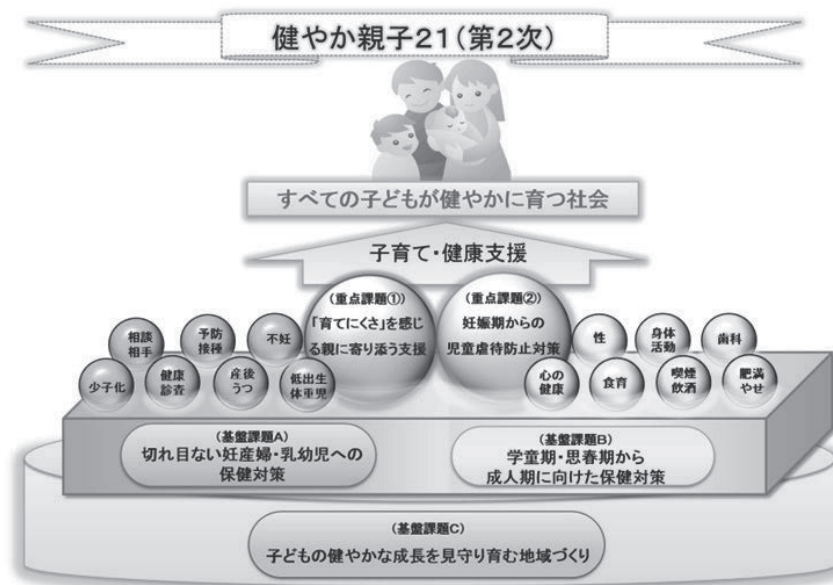
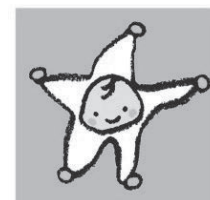


図1 「健やか親子21(第2次)」の基盤課題・重点課題と目標

第1次の赤色の背景から、親を孤立させない温かな地域をイメージできる緑色の背景に変更されました



健やか親子21

図2 「第2次シンボルマーク」

* 出典: <http://sukoyaka21.jp/>

この基盤課題達成に向けて、学術団体や職能団体による推進協議会84団体によるグループミーティングが、平成27年12月に東京で開催されました。活動テーマ(参加団体数)は、①国民への普及啓発・情報発信等(53団体)、②育児支援等(39団体)、③児童虐待防止・対応防止強化(30団体)、④調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等(30団体)の4テーマであり、本学会は基盤課題「切れ目ない妊娠・出産・子育て支援」に関連した①と④のテーマの推進協議参加団体として登録されました。推進協議参加団体はシンボルマーク(図2)を普及啓発が目的ならば自由に使用できます。本学会の目的「生まれるすべての子どもの健やかな成長への支援」を目指し、生殖看護のコンピテンシー(能力・行動特性)を明確にしつつ、国民への知識の普及とわかりやすい情報発信、調査研究やカウンセリング体制の充実のために他の参加団体と連携・協働して推進していきましょう。

第14回日本生殖看護学会学術集会のご案内

テーマ：東日本大震災から5年、被災地から発信する生殖看護

－みんなで始めよう！ 自然災害への備え－

日時：2016年9月11日（日）9時～17時の予定

場所：東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーデトリウム）

第14回日本生殖看護学会学術集会は東日本大震災の被災地である宮城県仙台市で開催させていただくことになりました。今年ちょうど被災してから丸5年目の節目の年になります。そこで、メインテーマに「東日本大震災から5年、被災地から発信する生殖看護」を掲げました。近年日本では様々な自然災害が起きています。また、大規模な地震の発生も懸念されています。今後起こりうるかもしれない大災害に際して生殖看護に携わる私たちは何をすべきか、経験や教訓を共有し、皆さまとともに考えていく機会にしたいと考えております。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

（学術集会長 高橋恵美子）

プログラム概要（案）

09：00～	受付開始 オリエンテーション、開会挨拶 会長講演「東日本大震災がARTを受けた女性に及ぼした影響」 高橋恵美子（東北大学病院 不妊症看護認定看護師） 基調講演「東日本大震災が岩手県・宮城県・福島県の生殖医療に与えた影響」 星 和彦（スズキ記念病院理事長） 一般演題（口頭発表及び質疑応答）
12：40～	ランチョンセミナー
13：30～	総会 一般演題（ポスター） シンポジウム「(仮) 東日本大震災を経験して、自然災害への備え」
～17：00	閉会式

*時間、教育講演やシンポジウムのテーマは変更の可能性があります。

参加申し込み方法

※事前申し込みは平成28年8月19日（金）までに郵便振り込みでお手続きください。

事前登録：会員5,000円、非会員6,000円、学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円、非会員7,000円、学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

事前登録時のお振込先：

【口座番号】02250-5-139714 【加入者名】第14回日本生殖看護学会学術集会

通信欄には、①氏名 ②区分（会員・非会員）③抄録集の発送先住所 ④電話番号 を明記ください。

一般演題の申し込み方法

演題申し込みは4月22日（金）までに、演題抄録は5月13日（金）までに、日本生殖看護学会ホームページ（第14回日本生殖看護学会学術集会公式サイト）からご登録ください。

お問い合わせ先

第14回日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：高橋恵美子、野澤美江子、大谷良子）

東北大学病院婦人科外来 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

事務局 E-Mail アドレス：jsfn14-office@umin.ac.jp

学術集会公式サイト：http://www.jsfn14.com/

これから行われる学術集会・研修会情報（2016年3月～6月）

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
3月	19日(土)～20日(日)	日本助産学会学術集会（第30回） “助産学の今、そして未来へ” －最善・最新の助産学構築に向けて－	京都大学百周年時計台記念館 （京都府京都市）	学会 HP：http://cscenter.co.jp/jam30/gaiyou.php 株式会社 CS センター 〒604-8141 京都市中京区泉正寺町334番地日昇ビル5階 電話：075-241-9620/FAX: 075-241-9620
4月	21日(木)～24日(日)	日本産科婦人科学会学術講演会（第68回） 次世代への継承と Standardization	東京国際フォーラム （東京都千代田区）	学会 HP：http://jsog.umin.ac.jp/68/index68.html 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学産科婦人科学分野 第68回学術講演会プログラム委員会事務局 Phone:03-3342-6111/FAX:03-3348-5918 E-mail: jsog68@tokyo-med.ac.jp

2015年度関東地区勉強会報告

東邦大学医療センター大森病院 安宅大輝

2015年12月13日(日) 聖路加国際病院 旧館5階 研修室にて「着床前診断の現状と課題 ～着床前診断を理解し、看護の役割を考える～」をテーマとした勉強会を開催し、31名の方が参加してくださいました。

着床前診断は新しい技術であり、臨床研究として位置付けられているため実施施設は限られています。そのため、生殖医療に携わっている医療従事者であっても、その実際を知らない者が多いという現状があります。そこで、私たち生殖医療に携わる医療従事者には、着床前診断を必要としている患者に対し、正しい知識を学び、正確な情報を伝えられることが求められます。今回の勉強会では基礎的な学びから、現場でどのように生かしていくかといった実践への活用を考えることが出来ればと思い、テーマを選びました。

講師には、臨床遺伝専門医である、加藤レディスクリニックの黒田知子先生をお迎えし、着床前診断の歴史から適応と審査対象、染色体異常の知識、そして実際の症例も交えて分かりやすくご講義頂きました。具体的には、着床前診断の対象者は限られていることや、申請から承認までに要する長期に渡る経過、加えて高額な費用も重なり、実施に至るまでのハードルの高さを実感しました。また、その対象者についても図式を用いてわかりやすく説明して頂いたことで、実際に着床前診断について相談された場合にどのように対応すればいいのかを具体的に理解することが出来ました。その後のグループディスカッションでは講義内容を踏まえて「自分の施設でできること」「患者に対して今後、自分に何ができるのか」等をテーマに話し合い、グループ毎に発表することで参加者全員の考えを共有することができました。アンケート結果では「現場で役立てられそう」「自身の不妊症看護について考えることができた」という意見が多数を占めており、更に「学びを深めたい」との声も聞かれ、自施設での看護実践に生かし、今後の自己研鑽への意欲を高めた参加者も多くみられました。

今後の展望としては、昨年、日本産科婦人科学会が着床前スクリーニングの臨床研究を始めることを承認したことで、社会的にも着床前診断・着床前スクリーニングへの関心が高まってきており、情報を必要とする患者も増えてくると考えられます。しかし、黒田先生からもご講義頂きましたが、双方を医療従事者でも混同してしまう可能性があることも懸念されています。よって、今回の勉強会をきっかけとして、着床前診断だけでなく着床前スクリーニングとの違いも理解したうえで、意思決定のサポートができるように生殖看護を深めていきたいと思いました。今回は多数の方のご参加を頂き誠にありがとうございました。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス)等を下記の連絡先までご連絡下さい。また、日本生殖看護学会ホームページには、勉強会の企画に関する資料が掲載されています。日本生殖看護学会のニュースレターやホームページにも広報を掲載することが出来ます。資料を参考になさってください。

【連絡先】 教育推進委員会 担当理事 千葉大学大学院看護学研究科 坂上 明子

akiko-sakajo@faculty.chiba-u.ac.jp

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話 & Fax : 043-226-2411

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会助成の募集を以下のように行っております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

なお、日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/study/josei.html>) に、助成の申請に関する詳細と申請書類等が掲載されていますのでご覧ください。

日本生殖看護学勉強会等助成要項

【助成の趣旨】

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

【応募資格】

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

【助成金】

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

【助成期間】

平成27年9月1日～平成28年8月31日までの約1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。
メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成27年9月1日～平成28年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。
3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 坂上明子
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域
TEL & FAX：043-226-2411 E-mail：akiko-sakajo@faculty.chiba-u.jp

【選考及び助成の決定】

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

【助成金の使途】

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【勉強会の成果の報告】

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

平成28年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

【研究助成期間】

平成28年9月1日～平成29年8月31日までの1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成28年4月1日（金）～6月30日（木）

【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成28年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

川元 美里 (将来検討委員会 幹事)

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号 聖路加国際大学

TEL/FAX 03-6226-6381 E-mail: jsfnshorai@gmail.com

理事会報告

第1回理事会

日時：2015(平成27)年11月14(土) 18:00~21:00

場所：聖路加国際大学本館5階505室

出席者：野澤、上澤、森_朋、村上、青柳、實崎、有森、
崎山、清水、村本、森_恵、定本(学術集会長)

【報告事項】

1. 第13回日本生殖看護学会学術集会：参加者数、優秀賞決定の経緯など運営報告および決算報告。
2. 理事長：生殖看護コンピテンシーモデルの研究計画、第14回日本生殖看護学会学術集会の進捗状況を報告。
3. 実践開発委員会：不妊症看護認定看護師の派遣状況、電話相談員の依頼、新幹事推薦を報告。
4. 将来検討委員会：年間計画、研究助成および学術集会に関する広報、生殖看護事例検討会の開催を報告。
5. 広報委員会：活動計画、NL No.43~45の発行計画案を報告。
6. 編集委員会：学会誌(第13巻)発行の進捗状況および平成27-28年度査読委員13名を報告。
7. 教育推進委員会：活動計画を検討中であることを報告。
8. 総務：学会管理、HP管理、理事会スケジュール、年間活動計画、会員分布を報告。
9. 会計：年間計画、会計報告および会計監査に関する理事・監事への協力依頼を報告。
10. 看保連対応WG：不妊症指導管理料のためのエ

ビデンス作成に向けた活動および一般不妊治療中の女性に対する適正な治療、QOL低下予防、コスト減等に向けて研究計画を報告。

11. 在宅自己注射マニュアル作成WG：デルファイ調査1~2回目の予定を報告。

【審議事項】

1. 将来構想の具現化に向けて：将来構想の具現化に向けた短期目標および取り組みを承認。
2. 入会・退会審査：3名の入会、15名の退会を承認。
3. 平成27年度役職・委員会校正・幹事審査：平成27年度の各委員会における幹事(総務3名、実践開発委員会6名、編集委員会2名、将来検討委員会3名、会計1名)を承認。
4. 認定看護師の派遣および紹介：自治体からの認定看護師に対する相談員派遣依頼は学会の派遣事業としての関与はしないことを承認。
5. 広告媒体の検討：リーフレットへのQRコード追加、将来構想を踏まえた目標と理事長名の加筆を承認。

第1回臨時(書面)理事会

日時：2015(平成27)年12月22日(火)

場所：書面による。

【審議事項】

1. 日本生殖看護学会 第14回学術集会企画案(プログラム、実行委員、広報等)を承認。
2. 入会審査：5名の入会を承認。

研究論文を学会誌に投稿してみませんか？

あなたの看護への想いを研究論文として形に残しませんか？

今からコツコツと準備を進め、査読を受け、質の高い論文の作成を目指しましょう！

第14巻第1号学会誌の投稿締め切りは、**平成28年11月末**を予定しています。

*投稿の詳細は、学会誌やHPに掲載する「論文投稿規定」をご確認ください。

日本生殖看護学会 編集委員会

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか？」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか？」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています！

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
2. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数343名（平成27年12月22日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

次号の原稿締切日

ニュースレター第44号の原稿締切日は、2016年5月9日（月）を予定しています。

編集後記

今年は暖冬のまま終わるのかと思えば、日本列島は急激な寒波や初夏並みの陽気に翻弄されています。“三寒四温”とはよく言ったものですね。国内外を問わず、様々な感染症も流行しております。皆さまどうぞお身体をご自愛の上、健やかに新年度をお迎えください。

広報委員：實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加国際大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333414

加入者名：日本生殖看護学会